

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 3 月 18 日 10:21AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～38,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～42,000 ドル
(S&P500) 5000～5740

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 15,700～18,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.523

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

年内に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4万3000円-4万5000円]です。

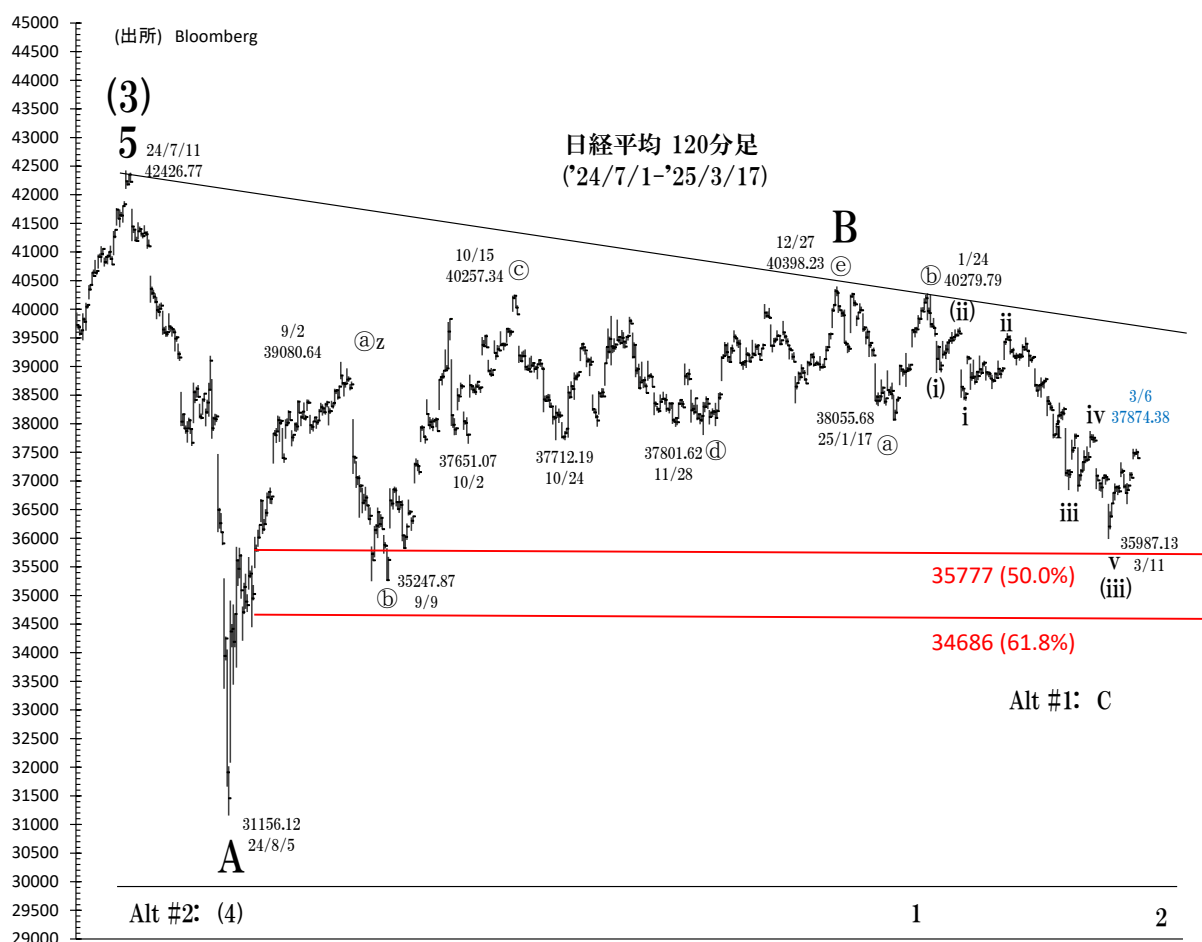
この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来5年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の3年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

24年7月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いています。第(2)波が「ジグザグ」だったことから、オルタネーションに則り、第(4)波形状は「トライアングル」、「フラット」、などの保ち合い型になるでしょう。

TOPIXに第(5)波ラリー入りの可能性

ところでこの数カ月間、**TOPIXの底堅さが目立ちます**。日経平均のC波は下げ幅を広げましたが、TOPIXの下げはこれまでのところ浅いものとどまります。昨年12月高値(2811.71)を上抜けば、TOPIXは日経平均に先んじ第(5)波のラリーに入った可能性があるでしょう。





【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)からは、第(4)波「シンメトリカル・トライアングル」(A-B-C-D-E)における、C 波の下落に当たります。

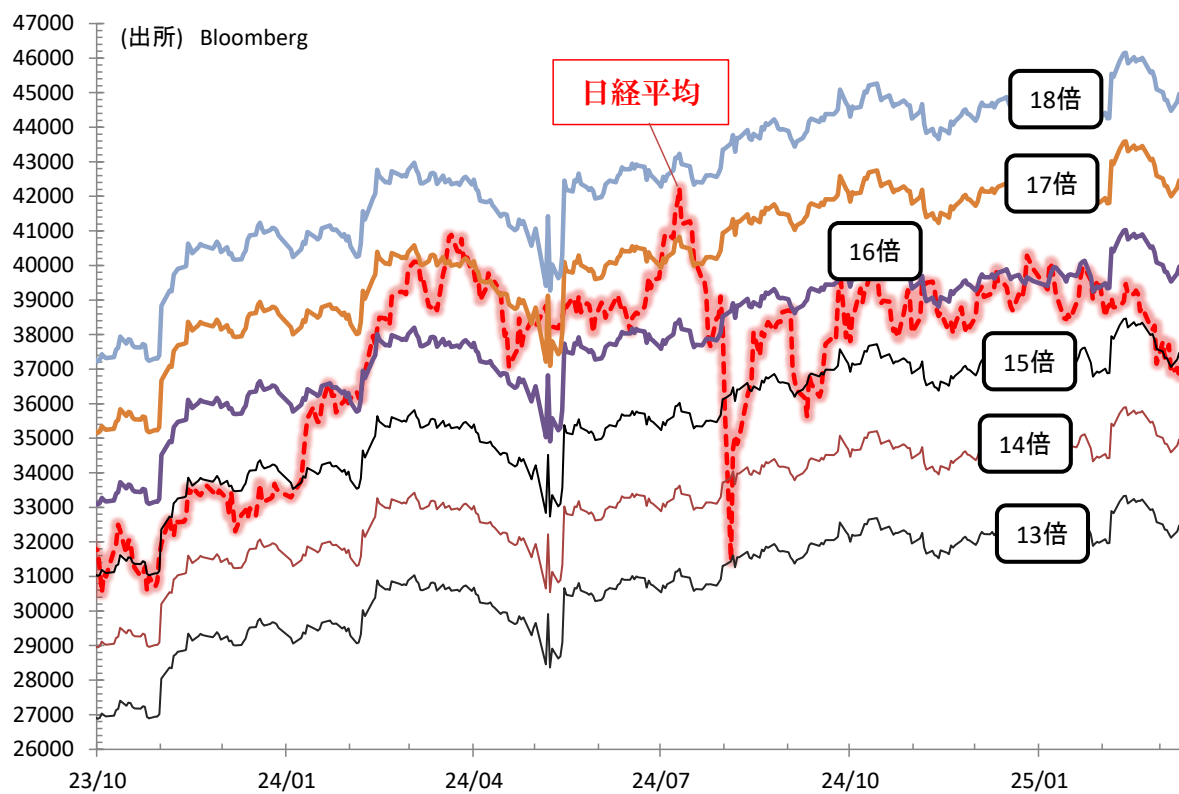
3 月 17 日は一時 500 円超の上昇となりましたが、今のところ C 波中のリバウンド局面とみています。戻りメドとしては 37,874 円(3/6 高値)付近が適当です。

足元のリバウンドを終了すると日経平均は下値模索を再開し、**[35,777 円]**(B 波の半値押し水準)、**[34,686 円]**(同 61.8%押し)などを引き続き、試す可能性があります。

一方、**3 月 11 日安値(35,987 円)**を以て C 波は完了しており、今は D 波による戻り局面という可能性も**浮上**しています。3 月 11 日の取引時間中、日経平均は 1041 円安となり 3 万 6000 円を下回りました。日中安値(35,987 円)を付けた時点で、日経平均 PER は 14.5 倍を下回りました。この日の大引けにかけて日経平均が急速に下げ渋った動きをみると—終値は 36,793 円(235 円安)・PER は 14.73 倍でした—割安感が強まっていたことが伺えます。

[予想 PER 別の日経平均水準]

日経平均予想 EPS は 2477 円(3/17)。過去最高は 2564 円(2/13)です。



NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を 45,073ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。試みに最高値から 22.4%下げる水準は[34,977ドル]であり、3 万 5000ドル処は中期タームの下値目標といえそうです。

今後数カ月内の下値目標としては、[37,611ドル](24 年 4 月安値)に注目です。これは「エンディング・ダイアゴナル」開始点水準です。

40,661ドル(3/13 安値)からは、マイナー級の第 2 波によるリバウンド局面とみられます。3 月 17 日には一時 42,013ドルまで上昇し、200 日 MA に達しています。

引き続き上値試しとなれば、[42,339ドル-42,858ドル]を試すでしょう。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

6147(2/19 高値)から 5504(3/13 安値)までの第 1 波(マイナー級)に続き、第 2 波によるリバウンド局面が展開中とみられます。第 2 波の上値メドは次の通りです。

[5742]…200 日 MA(3/17 時点)

[5750]…第 1 波の下げ幅に対する 38.2%戻り

[5826]…同 50%戻り

[5901]…同 61.8%戻り

これら節目のいずれかでリバウンドを終えると、次はマイナー級の第 3 波による下落が続きますが、それは勢いあるダイナミックなものになるでしょう。



【時間足 エリオット波動分析】

1 月高値 45,054 ドルからの波動段階についてですが、(従来のマイナー級から) インターミディエイト級 第(3)波とカウントし直します。第(3)波はマイナー級の五波構成(1~5)となり、40,661 ドル(3/13 安値)からはマイナー級の第 2 波とカウントされます。

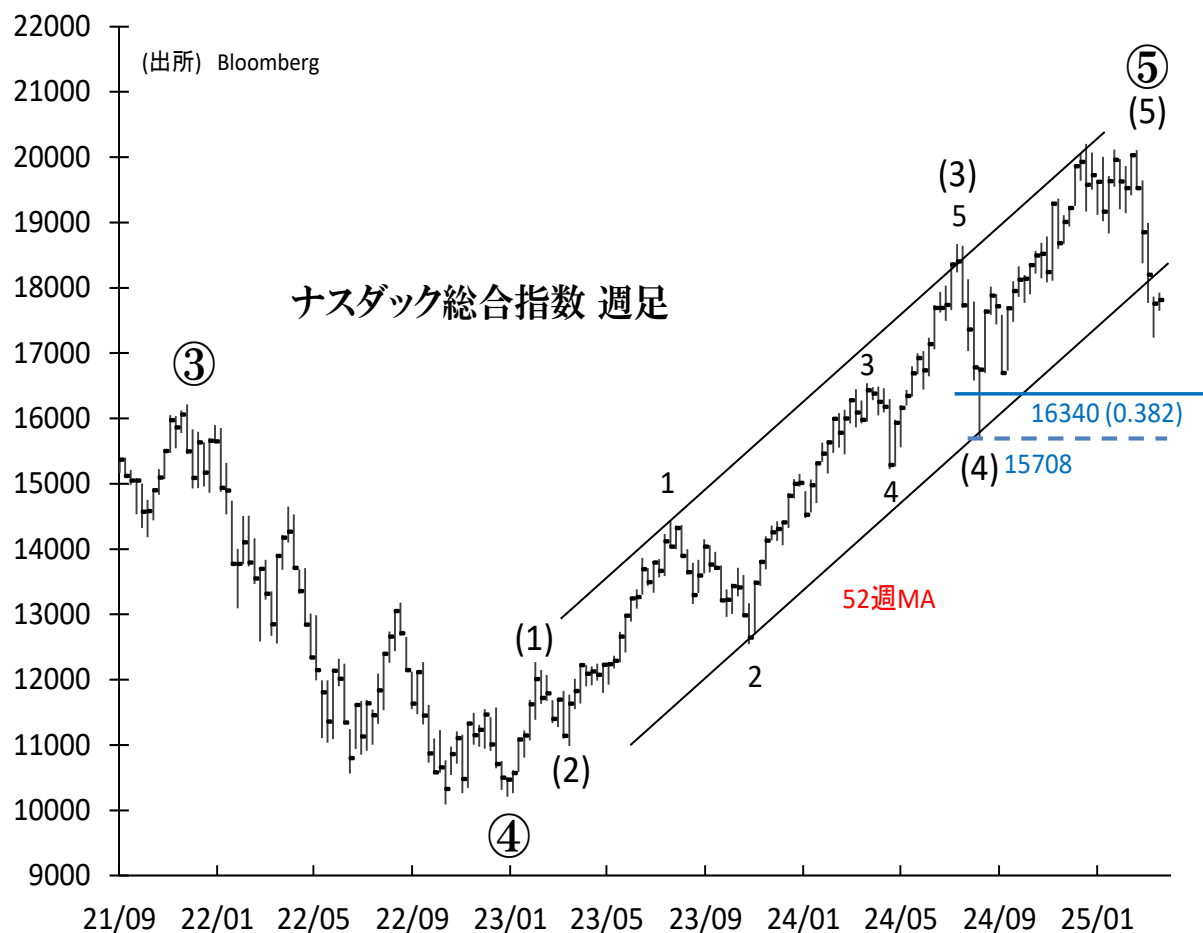
第 2 波は「ジグザグ」パターンを辿ることが多いですが、これによれば、**リバウンド期間は比較的短期にとどまると考えられます。**

フィボナッチ比率からの第 2 波メドは以下の通りです。

[42,339 ドル]…第 1 波の下げ幅に対する 38.2%戻り

[42,858 ドル]…同 50%戻り

ナスダック



【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

ナスダック総合指数(以下、ナスダック)は、22 年 12 月安値(10,207)以来のプライマリー級第⑤波を完了し、サイクル級の調整に入った可能性が高い、とみています。

この見方通りなら、ナスダックの今後の調整規模はより大きくなり、期間も長くなるでしょう。

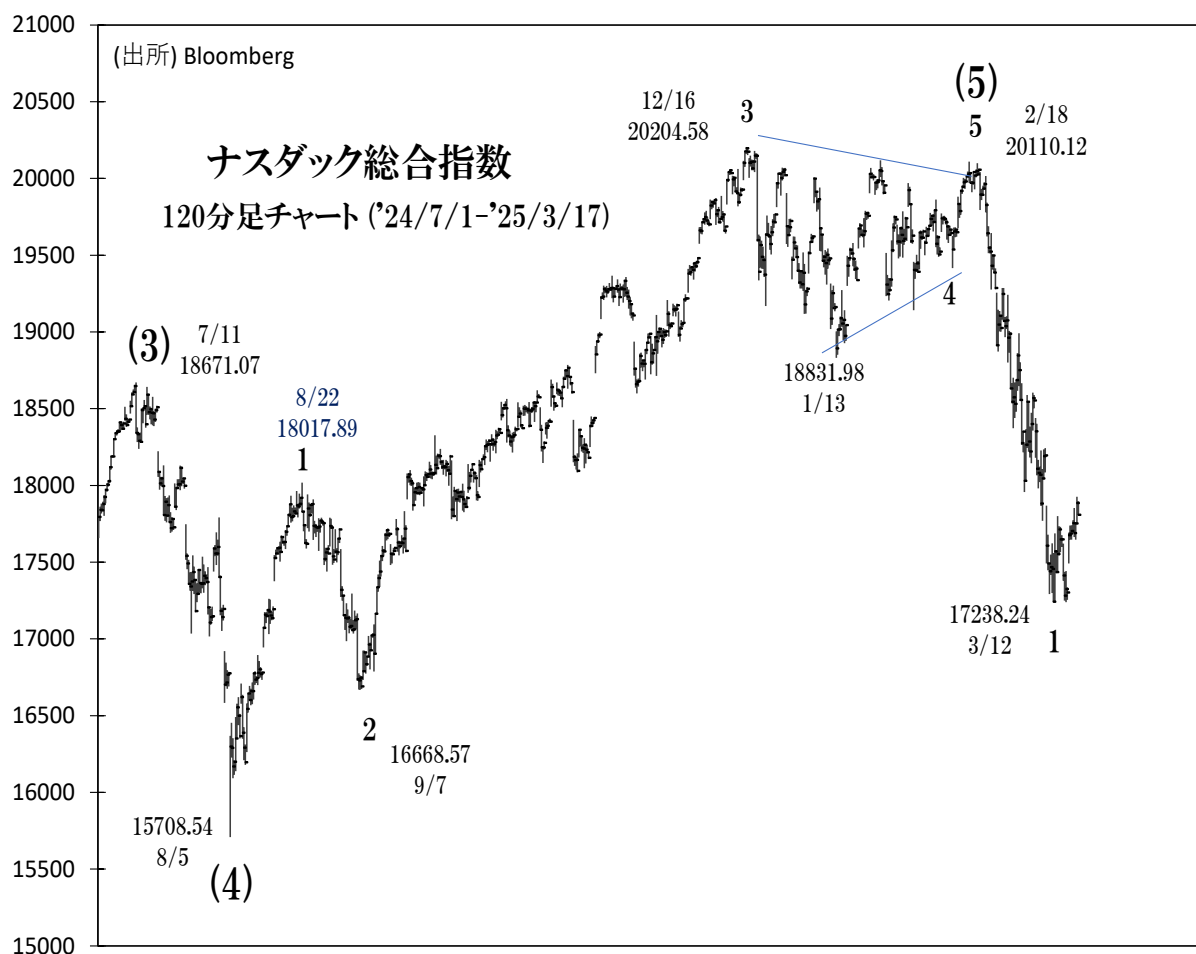
今後数カ月内にもナスダックは、以下に示す節目を目指す可能性があります。

[16,340]…22 年 10 月から 24 年 12 月までの上昇に対し 38.2%押し水準

[15,708]…プライマリー①波のレツサーディグリー(4)波安値

プライマリー④波の下げ率(37.77%)は、ほぼフィボナッチ比率(38.2%)でした。今後 1～2 年という期間では、**[12,527]**(24 年 12 月高値から 38%下げる水準)へ下押す可能性もありそうです。





【時間足 エリオット波動分析】

20,110(2/18 高値)を以て第 5 波による上昇は完了し—それは最高値に未達の『短縮された第 5 波 (truncated fifth wave)』でした—本格的な調整が展開しています。

17,238(3/12 安値)から、(マイナー級)第 2 波によるリバウンドに入ったとみられます。

フィボナッチ比率によるレジスタンスは[18,335-19,013](第 1 波下げ幅の 38.2%-61.8%戻り)です。第 2 波のパターンはおそらく「ジグザグ」となるでしょう。

リバウンド後、第 3 波による下落トレンドが想定されます。第 3 波はナスダックを、週足分析であげた [16,340]、[15,708]などへ押し下げることになるでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028年4月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24年7月の161.938 円は、15年6月・125.860 円から9年目に付けた「8年サイクル高値」とみられます。

22年10月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行C波はA波安値(127.158 円)を下回りません。C波は三波で構成され、2011年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は136.165 円(3月)に位置します。

②の場合は、現行C波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は116.540 円(3月)です。



【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]説によれば、C 波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。158.825 円(1/10)から、Ⓒ波によるドル安・円高が進行中とみられます。

ドル/円は今後数カ月内に、24 年 9 月の 139.565 円を下抜く可能性があります。以下の水準はⒸ波ターゲットとして要注目です。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

ドル/円は[146.922 円] (9 月からのドル/円上昇の 61.8%押し水準)のサポート付近で下げ渋り、足元はリバウムの動きがみられます。

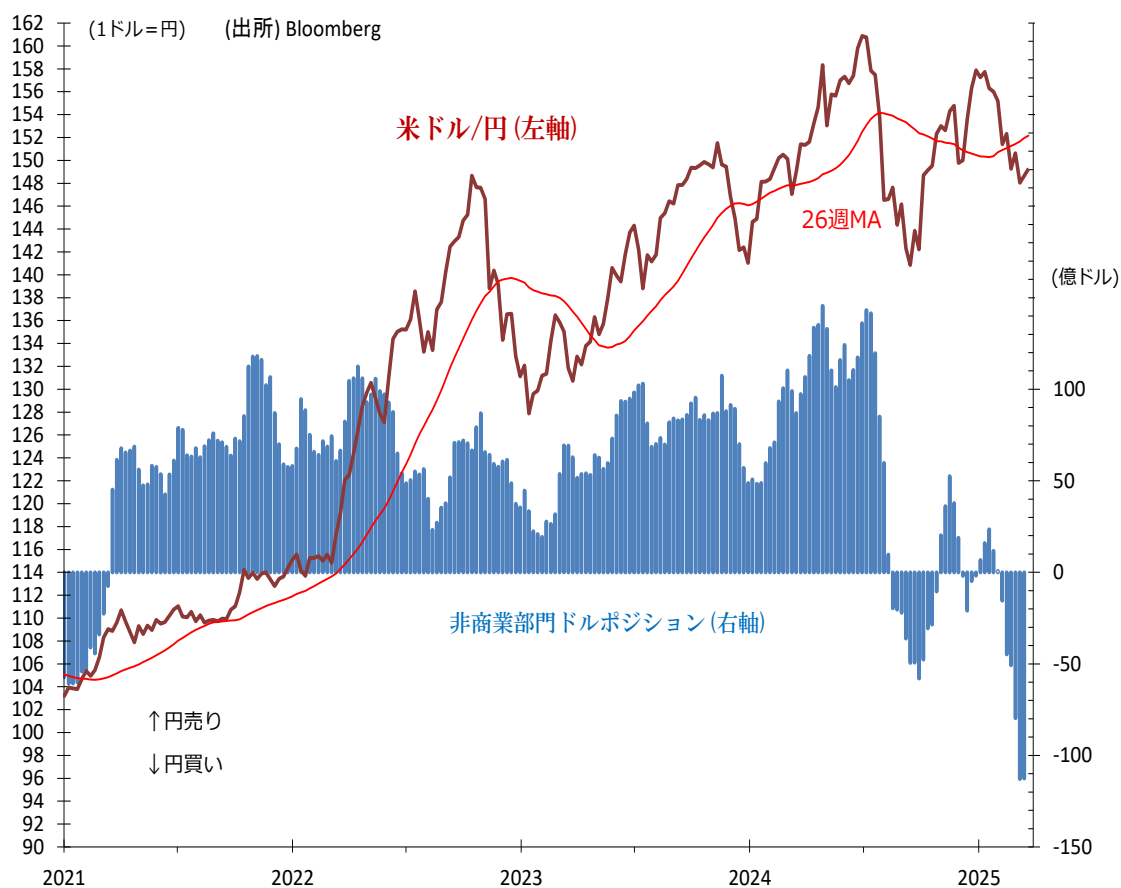
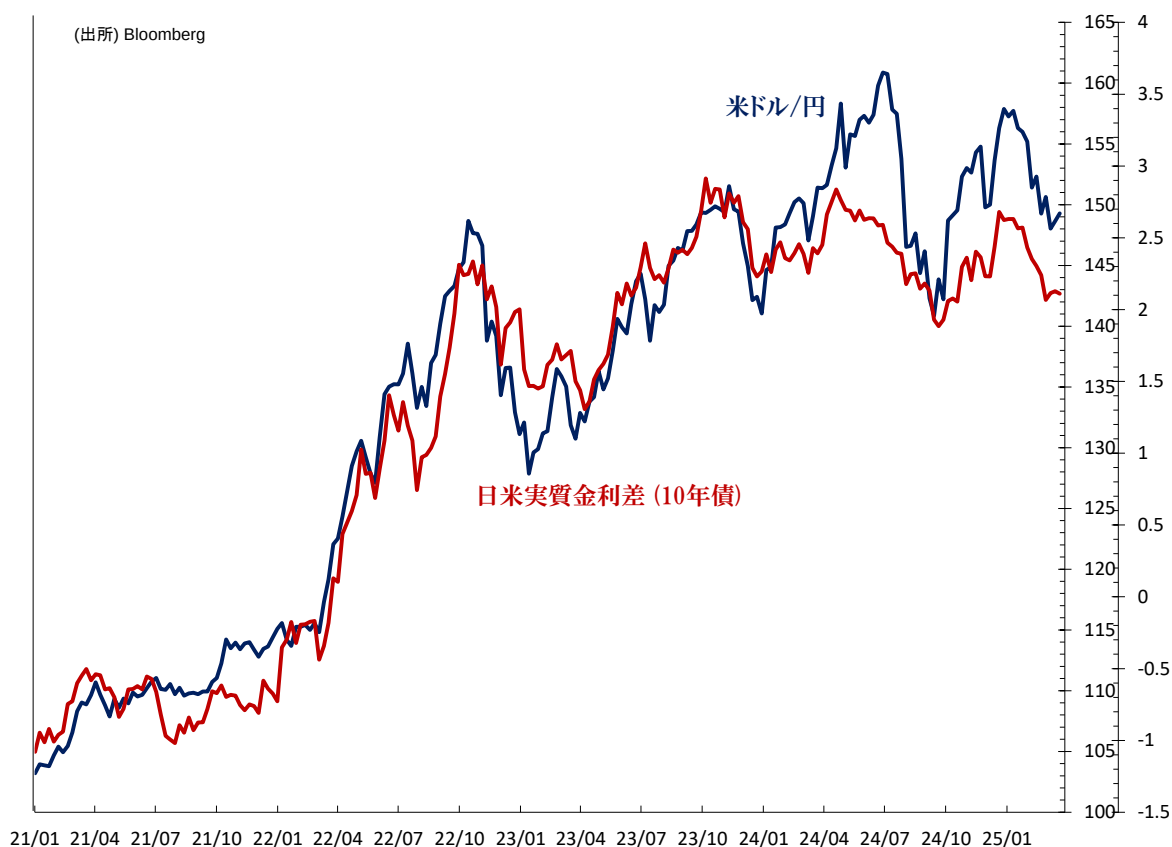
IMM 通貨先物市場では、投機筋による円買い持ちが過去最大に膨らんでいることから、円売り戻しによるドル/円上昇(リバウンド)も予想されます。

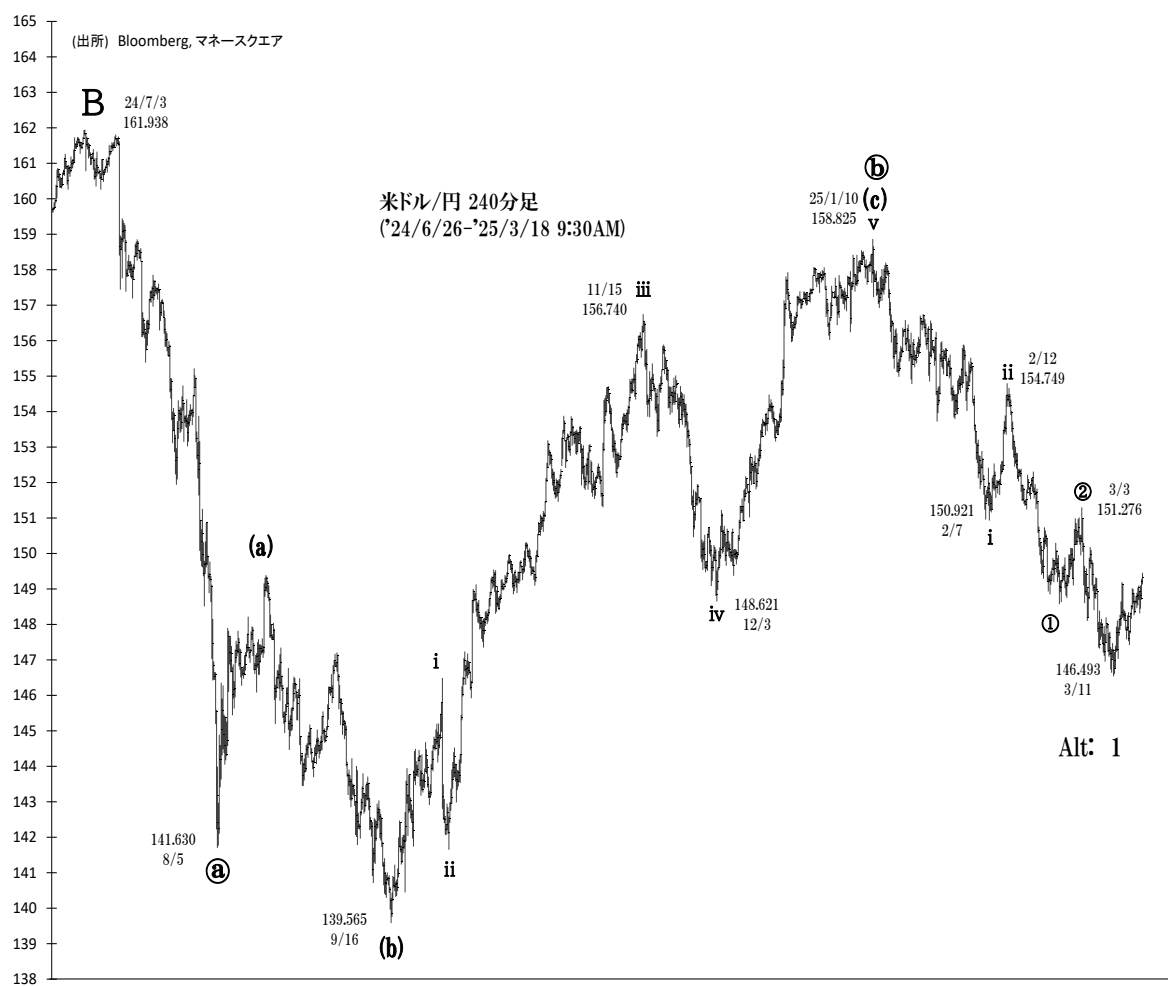
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[144.971 円]です。

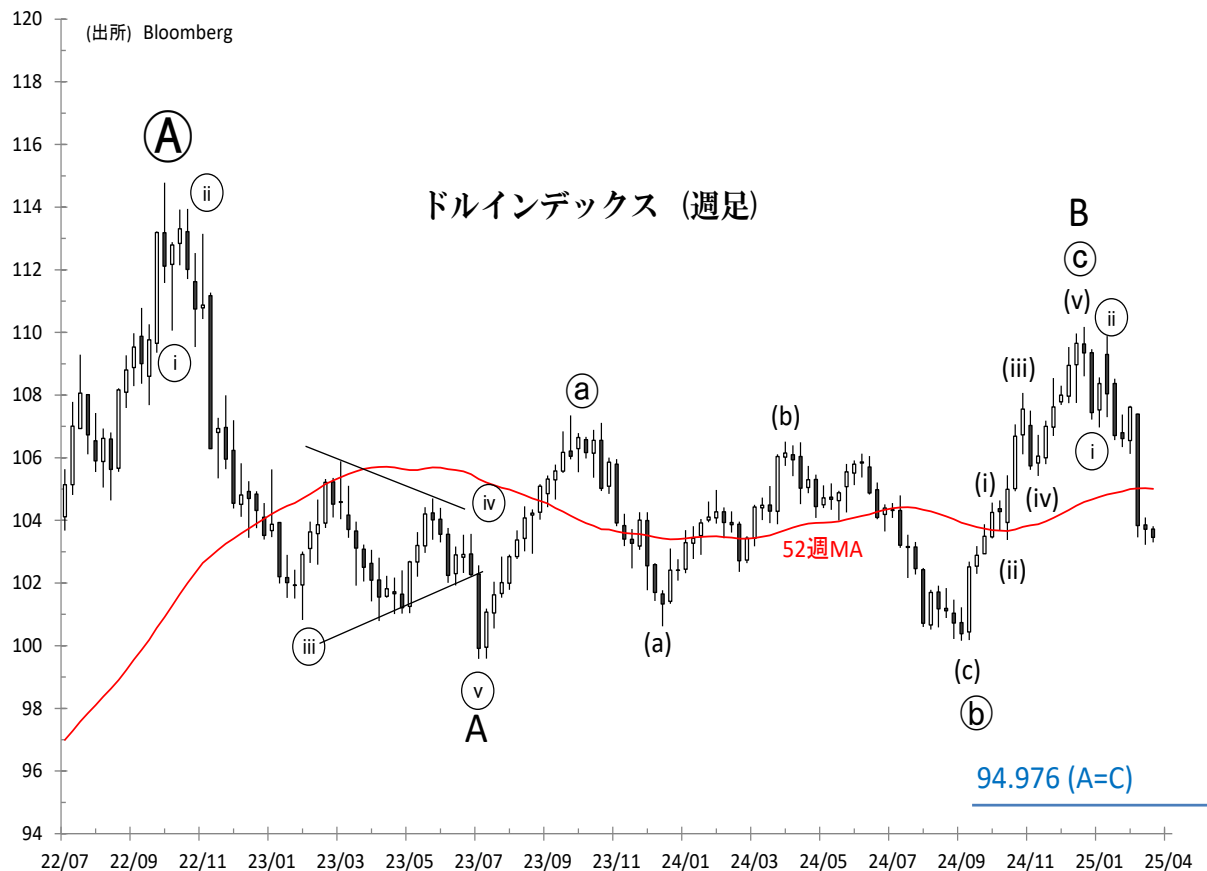
投機筋の円買い持ち高は 5 週連続増加(2025 年 3 月 11 日時点)

IMM 通貨先物市場における、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の 112.8 億ドルから 113.2 億ドルへ、5 週連続で増加。過去最大の買い持ち高が続いています。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)からのドル安は、C 波に位置付けられます。

109.881(2/3 高値)から C-マル iii 波によるドル安が進行中です。既に 52 週 MA を大きく下回って推移しています。

足元、フィボナッチ・サポートレベル[103.984]付近で下げ渋ってはいますが、基調としてのドル安は今後も継続する見通しです。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドル指数は 10 カ月で 13.2%減価しました。C 波も同様と仮定すると、**今年 11 月頃にドル指数が[95.632]まで下げる可能性**を指摘できます。なお A 波と C 波が同幅下げるとすると**[94.976]**が得られます。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
